

製品名: PYK2 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21075

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:116kD;Observed MW:116kD

抗原情報

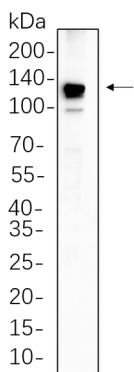
遺伝子名	PTK2B
別名	PTK2B;FAK2;PYK2;RAFTK;Protein-tyrosine kinase 2-beta;Calcium-dependent tyrosine kinase;CADTK;Calcium-regulated non-receptor proline-rich tyrosine kinase;Cell adhesion kinase beta;CAK-beta;CAKB;Focal adhesion kinase 2;FADK 2;Pro
遺伝子 ID	2185.0
SwissProt ID	Q14289
免疫原	ヒト PYK2 の合成ペプチド

背景

細胞局在：細胞質。細胞質、核周縁部。細胞膜；膜周縁タンパク質；細胞質側。細胞接合、接着斑。細胞突出、葉状仮足。細胞質、細胞皮質。核。NPHP1との相互作用により、キナーゼの膜会合が誘導される。細胞周縁部でインテグリンと共局在する。この遺伝子は、カルシウム誘導性イオンチャネル調節およびMAPキナーゼシグナル伝達経路の活性化に關与する細胞質タンパク質チロシンキナーゼをコードしている。コードされているタンパク質は、カルシウム流入を増加させる神経ペプチド活性化受容体または神経伝達物質と、神経活動を制御する下流シグナルとの間の重要なシグナル伝達中間体である可能性がある。コードされているタンパク質は、細胞内カルシウム濃度の上昇、ニコチン性アセチルコリン受容体の活性化、膜脱分極、またはタンパク質キナーゼCの活性化に応答して、急速なチロシンリン酸化および活性化を受ける。このタンパク質は、CRK 関連基質、ネフロシチン、FAK 関連GTPase 調節因子、およびGRB2のSH2ドメインに結合することが示されています。コードされているタンパク質は、タンパク質チロシンキナーゼのFAKサブファミリーのメンバーですが、顕著な配列相同性はありませぬ。

研究分野

画像データ



Raji細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、膜をPYK2ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でブロットニングした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。